婦人と家庭

お子さん達の中に ありませんか 算術が出來ない子

算術だけ特に惡いのは 耳からの記憶が惡い爲

＝小學＝校の子供には讀方の出來ない者より算術の出來ない者の方が遙かに多く、又それ等の子供は讀方の出來ない子供と違つて、いくら教へても効果がないやうです、（讀方は勉强次第で或る程度まで上達するが）斯うした算術の出來ない子供達は大體三つに分けることが出來ます、

（一）智能が劣つてゐてその一つとして算術が駄目なものが之に智能檢査に依つても、亦學校の成績表を見ただけでも一様に總ての學課が劣つてゐる點で直ぐ判ります

（二）他の學課は人並或は人並以上によく出來るのに算術だけが特別に惡いもの斯うした子供達を調べるには精密な精神檢査を必要としますがそれに依ると

＝之等＝の子供達は、記憶の中でも耳からの記憶が惡いために算術が出來ないといふ事が判るのです、何故かと云ふとごんな計算にも必ず暗算の要素が入つてゐますが暗算は耳と聲の記憶（聽覺運動の記憶）のたすけをとりねばならないのです、高等小學校を卒業してゐながら（7＋8＋3）×2といふ計算さへ出來ずごんな平易な計算も大抵間違つて了ふ子供を檢査してみますと、智能も眼から來る記憶も普通であるのに耳からの記憶が普通の半分位の能力しかないのが判りました、耳そのものが惡いのでなく、耳からの記憶が惡い子供は、出來るだけ早く教育相談所などに出向いて此の缺陷を發見してもらつて適當な教育法を施すべきで

＝その＝一方法として耳の記憶がないのですから、眼の記憶と、手或はその他の運動の記憶を主にしてなるべく、具體的なものから計算に入るやうにするのです、普通の子供のやうに計算を言葉の記憶として固定させずに（九九などは全く言葉の記憶ですが）手や眼の記憶として固定させる方法を採ればいいわけです何故算術が耳の記憶と深い關係があるかといふと、耳の記憶は抽象的思考と非常に密接な關係があり、そして數は子供の取扱ふものの中では一番抽象的なものだからです

（三）先生或は父兄の初めの數へ方が惡いために計算の基礎が出來ず、そのために算術が駄目になる場合もあります

＝子供＝は12＋2＝14といふ式と、14×2＝7といふ式とを一緒にして12＋2＝14＝2＝7といふやうに書く誤ちを非常にやりますが、之は＝（エクオル）の意義を教へる時に、＝は前の計算（式）と後の計算が等しい事を表はす記號だと教へずに＝をその次へ答へを書く記號だと教へたことに原因してゐます、以上は大體レチウキツタの研究に依つたものですが、特に第二の他の成績は普通だが、算術だけ出來ぬといふ子供に就ては、十分注意して早く惡い結果に陷らぬやうにしてやるべきではないかと思はれます。

古洋服でも こんなに利用出來ます

洋服のいたむのは上着では袖口とか肱など、ズボンでは膝と臀部と裾口などで、その他のところはさう破れるものではありません。

それ故さうしたいたんだ場所を切捨てると殘りで子供の服が充分にとれます。尤もワンピース仕立の女兒服にはあまりはぎめが多くなりますがスカートや男兒服には利用ができます。

また座蒲團にすると暖かくて汚目も眼立ちませんから便利です。

子供服などに取つた殘布はざつとしたフランス刺繍でも入れると氣の利いた手提袋ができます。また四角や三角などの一定の形に切り、取合せのよい布をあしらつてはぎ合はすと、面白い蒲團皮になります。

海の外から

口トーキー界の進歩 獨乙ではトーキー映畫を製作する際、各國語を一時に話しても支障なく全部とれる構造の器械を發明した。數多の俳優が一室で遲速な構はず話綴を氣にせずスラ／＼奉仕出來る

口米國建築界の新趣向 米國の建築界では、普通家屋に換氣裝置を必要として天井下の角々に長方形の外氣通風口を設備することを提唱してゐるが、實驗の結果通風採光に資するのみならず室内の塵埃が逃げるので頗る好評

口停車場で働く運搬者 英國ニューカスルに在る主なる停車場構内では八百噸位の重量ある荷物を自由自在に運搬するエレヂン車でお往左往してゐる

戀の黒船往來

新興キネマ上映及上演

（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第四十回

山葱探査（三）

年若な夏川左京は、道を左へ反れて低い櫟柏林の中を分入つた。同じく年長痩身の磯貝武七郎は、道を右へ駒ヶ岳の山つづきの傾斜を登つた。山路には、ところどころ赤楊、吉利子桜も交つてゐた。

さすがに黒百合の花はもう見られないが、山牡丹の綺麗な花が春の名殘を咲き亂れてゐた。

歩きながら、仔細に地肌を調べてみると、このあたり一帯は噴火のあとをとゞめて燒石が敷つめられてあつた。しかも、その燒石に苔が生へて、雜草がこんもりと覆ひかぶさつてゐる。

で、いくら眼を皿のやうにして歩き廻つても、山葱群生の地域がありさうもない。野作雜記の類書には……此邊（フクシヤクウシの事）ニ來ルヤ、往昔ノ金坑ノ發掘跡ニテ、此山ヲ遠望スルニ日ニ映ジテ黄金ノ瑞氣立昇リ山間ニタナビキ草露ヲ照シ實ニ無盡ノ寶藏タル山相ナリ、とあるが、そんな誇張した支那流の文章をのぞまなくとも、せめて山葱だけでも簇生してゐていゝわけだが、一向にそれらしい野生の草も發見されない。

それでも、探險家のつねとして一刻ほど根氣よく探し歩いた。

やがて、ほつと一息入れて、この旅の一挿話ともなる、山葱探査を名殘りをしく見限つたとき、おのれの立つてゐる、ほんの近くの枝道をさら〳〵と柔草を撫でるやうな音をさせて近づくものがあつた。

武七郎は、ぎよつとして振かへつた。

熊か、豺狼か、跳兎か……乃至は、石虎か、黄猫か、鼯鼠か……長旅で經驗した、怪獸小獸の形相をひとつひとつ空間に描いてみて武七郎、柄頭に手をかけ、きつと足音のする方を睨まへた。

足音は、はや數間さきの赤楊の小子までせまつた。

『誰ぢや！夏川氏か？』

もしやとおもつて呼んでみたが、足音の主はそれに應へず、ヒタと立どまつたらしい。

いよ〳〵熊だ。

石虎だ！

武七郎は、棒のやうに突立つたまゝ荒息を吐いた。

と、急にまた雜草はさら〳〵鳴つた。何を感じたか足音の主はおそれ戰いて、退却するらしい。

『おのれ』

反對に勇氣づいて武七郎は、燒石の地肌を蹴つてそれを追ふた。

相手はいつさんに逃げた。櫟柏林を縱横左右に巧に駈拔ゐる。それを追込まうとする武七郎の方は、相當難儀だ。

――跳兎か……

つひに、彼の顔面に苦笑がのぼつた。

こんな、山間無人の境で、たかが跳兎一匹おひまくつて何とする……と、おもつたのだ。が、立とまつたとき、彼の眼に映つたのは櫟葉のかげをよ切つて、遠く姿を隱さうとする相手の正體だつた。

――おゝ、人だ！

ふたたび、武七郎は柄頭に手をかけた。

『待てい！』

叫んだ。その聲がりんと四邊に響き、それが今脱兎の如く密林の中をのがれ去らうとする曲者の足をちゞまらした。

『……………』

金縛りに遭つたやうに、その場に縮み上つたくせものは、何か訴へたやうだつたが、武七郎には聞きとれなかつた。

『待てい』もいちど、强く嚴かに叫んで、いつさんにくせものゝ方へ近づいていつた。

近寄つて木かげを透してみると相手のくせものは、まつたく熊でも石虎の類でもなく、人間――しかもアイヌのメノコの面貌する顔だつたので、武七郎は拍子拔けがした。

夕刊
新京日日新聞
定價　一箇月　金一圓八十錢　三箇月　金五圓十錢　一部　金三錢
郵稅
新京永樂町四丁目一番地
發行所　新京日日新聞社
電話三〇〇番・三三二五番・二三三二番
發行人　十河榮忠
編輯人　松本男
印刷人　谷啓二郎

百億ドルの負債に
惱む米國農村
救濟はますく困難

不穩の米國農村

百億弗の負債に苦んでゐる米國の農村は今や窮鼠却つて猫を嚙むの類で、財産差押執達吏に對し暴力を以て對抗する狀態で百姓一揆もどきの騒ぎ潮勢、一歩過れば反亂も起りかねない不穩の空氣が漲つてゐる、この形勢は今度の財界恐慌の一因でもあつたが、この恐慌がまた因となつて益々險悪する虞れもあるわけである、何しろ農村の負債が戰前の三倍の百億弗にも上つてゐるのに、收入は戰前の半額以下に、好況時代の八分の一にも減じ、而も生活必需品の價格は戰前よりも六分高といふのだから、やり切れない、農民は借金と收入減の二重の重壓に挾まれて四苦八苦の狀態である

大農組織の惱み

農村不況は近年殆ど世界各國に共通の事態ではあるが、之が米國に於て特に甚だしいといふのは米國の農業組織が世界無比の大農制になつてゐる故でもある、東洋諸國などの農業は小規模で、不況の場合自家需要を基本とする自給自足的農業にも近づき易く、環境に對する融通性に富んでゐる、然るに米國の農業は機械力による大農組織で、その耕作物は殆ど專門化してゐる、何百町歩といふ大耕地を棉花だけ、小麥だけ、又は馬鈴薯だけといふ風に耕作してゐる農家が多い、要するに米國の農場は或る意味に於て特殊の農産物を生産する工場のやうなものになつてゐる、で其の作物の種類を變へ又はそれに變化を多くすることは設備や市場などの關係からでも困難な事情にある、近年米國に於て幾百エーカーに亘る小麥が立枯れの儘放棄されたり、數百町歩の馬鈴薯が掘らずに棄てられたりするのは農業の工業化と市場閉塞に伴ふ已むを得ない現象である

かうした結果として米國に於ける農場の約半數は借金の抵當に入つてゐる、抵當に入つてゐないのは所謂不在地主のものばかりで、その不在主は大抵都會に於て商工業や金融業に關係してゐる富豪階級といふことになつてゐる、そして農場を抵當として押えてゐる債權者は言へば大體次の如くになつてゐる

債權者種類	金額（百萬弗）	百分率
聯邦不動産銀行	一、一四六	一二・一
株式不動産銀行	六六七	七・〇
商業銀行	一、〇二〇	一〇・八
抵當會社	九八八	一〇・四
保險會社	二、二六四	二三・九
農家出身者	一、〇〇六	一〇・六
農家	三三九	三・六
其他	二、二三八	二三・六
合計	九、四六八	一〇〇・〇

救濟策に腐心

農家は債務に對し利子も支拂ひ得ない狀態であるから債權者は抵當土地の差押へを執行せねばならず、そのため血なまぐさい事件の頻發となるので、アイオワ州當局の如きは應急策として農家抵當物の押收を差控へることを債權者に懇望してゐるが、近くこれにつき徹底的な救濟法が講ぜられる豫定である、その他の州でも續々同樣な手段を鋭意講究中である、又債權者側でも或る大保險會社は最近自作農の抵當物件差押へを一時見合せることに決じたが、その他の銀行會社も同樣の溫情的手段を採るの外なからうと見られてゐる

この農村負債問題については米國議會にも種々雜多な建議案が出て居り上院の銀行及び通貨委員會にはアーカンサス州選出議員ロビンソン氏から農家負債救濟の爲め資本十億弗の金融會社設立案が出てゐる、これにより農家に直接金融する外聯邦不動産銀行へ約五億弗を融資しその銀行の活動力を高め、農家に對する貸出しを增加させる計畫である、また株式不動産銀行へも融資する希望である

救濟の困難

農村負債問題―債務者である農家が殆んど支拂能力を喪失してゐるだけではなく、債權者側もかなり窮況にあり、殊に個人債權者中には利子も入らず全く無收入となつて困つてゐる氣の毒な人々が多い、老人となり又は寡婦となつて農場を賣拂ひ、其の代價を土地抵當で貸付け、その利子によつて生活してゐる人々の如きは今や農家に劣らない窮狀に陥り、この種の債權が全体の約五分ノ一にも達してゐるとされてゐる、その外農村相手の不動産會社や銀行も殊に今回の財界恐慌によつて痛手を受けてゐるのであるから農村モラトリアムといふことも影響するところ多く、極めて困難な問題である。農村救濟問題はフーヴアー大統領も手を燒いた難事業で、且つ米國農産物が盛んに海外に賣れるやうになるといふ見込は今のところ全く無く、實狀は今やフーヴアー時代よりも却つて惡化してゐるのであるからルーズヴエルト新大統領の靈腕を以てするも農村の救濟は容易ならぬ難事業であらう、その間に農村の大衆は自暴自棄から不測の不祥事が激發されないとも限らない、ルーズヴエルト大統領は其の政見として各國との協調により關税障壁を低くし、農産物の海外輸出を增加すると共に農家の窮狀を財政的に救濟する計畫を發表してゐるが、その財界自身が既にボロを出した今日農村金融はインフレーション政策にでもよるより外ないとも見ねばなるまい

熱河省事情〔二〕

「熱河」地名の由來

「熱河」は昔から著名な地名ではない元は河の名で、此の地方の蒙古人が「ハラガヌゴーロ」（熱き河の意）と呼んでゐたものを漢人が「熱河」と譯し、西洋人はこれを「Jehol」と音譯してゐる。

この名は、同地の清朝行宮（避暑山莊）内に溫泉が湧出して居て、河水が溫を帶び冬も凍らないところから起つた名稱だと言はれる。

水經の註に「濡水又東南流す、武列水入る、其水三川派合す」とあるが、現在の地形に徴して濡水は今の灤河であり武列水とは今の熱河といふ事になる、尤も承德府志卷十五高宗（乾隆帝）御製熱河考には武列水即ち熱河と斷じてあるから恐らく間違ひはあるまい

明代以前にあつては、たゞ此の武列水のほかには熱河に關聯した紀實は殆んど見る事は出來ない。淸代まで、熱河は何等の城廓もない山間の僻村だつたのであらう。

蒙古遊志によれば熱河に就いて左の如く記されてゐる。

「熱河は三源あり。西源は圍場の東南察罕陀羅海山の西固都古爾卡倫の南に出で南流して豐寧縣境を經、固都爾呼河と稱す。中源は喀喇沁右翼の西境默沁巴罕西の□□溝より出て□沁□と稱し西南流して承德府東北の茅溝汎を經始て茅溝河と稱し中關行宮の東に至て固都爾呼河に會す其の東源は喀喇沁右翼の西南霍爾霍克達巴罕西の三道溝より出て賽音河と稱し西南流して承德府の東北境に至る溫泉あり之に入る。既にして又固都爾呼の南流するに會し三源合一して避暑山莊の東に至る山莊内湧出の溫泉又來り注ぐ、合する所の諸水大抵溫泉に係る故に此を熱河と稱す。其の茅溝は甚だ熱にして賽音河は溫和にして人身に佳なりと云ふ」

「熱河」の名が初めて文獻に現れたのは康熙三十一年（一六九二年）の事である。數回に亘る康熙帝に塞外巡幸中熱河の溫泉が帝の御目に止つたのも此の年で、その後久しく顧られなかつた樣である。

そして十年後、即ち康熙四十一年閏六月「甲午熱河下營に駐蹕す、七月壬子熱河より啓蹕して圍を行ふ」とあるから此の年には熱河に行在所を設けたのみならず、此の地を起點として木蘭圍場の巻狩まで行はれたものと思はれる。

又、康熙帝が熱河の地を選んで避暑山莊を造營するに決したのは、西洋人の技師に試驗さした結果、熱河の溫泉が各地の溫泉に比し一番勝れてゐたからだとの事である。汪灝の隨鑾紀恩に左の如く記されてゐる。

「朕所歷湯泉、如遵化州・馬蘭谷・獨石口・昌平・及塞近者哈貝、遠者索約兒凡二十二處、所至俱令西洋人以銅碗盛水、重湯煎之、俟水乾驗其底、或硫或硝、或礆、各有不同、大抵坐湯可舒筋骨「衆療人病南人多未之知也」

怪人凱歌（百七十六）

（舞臺上演・映畫化）須藤鐘一　（畫）灘　秋方

恐怖時代（八）

一瞬、開いた障子をぴつたりしめて、ぬつと立ちはだかつたのは、黑つぽい背廣服に半ズボンをはいた白髪紳士であつた。右手につかんだのは汚れた鳥打帽。

鋭い眼でジロリと室内を見まはした。鉢の出た六曲の金屏風を枕頭にめぐらして、主人夫妻の床がのべてある切りで、うそ寒いほど廣々とした感じがする。

夫人は、さつきの『御免』といふ聲に眼をさましたらしいが、何しろその場の樣子がたゞごとでないので、そのまゝ布團をかぶつて、そつと隙間からのぞき見をしてゐた。

多賀氏はしかし顏色も變へなかつた。

『君は何者だ?』と、詰るやうにいつた。おだやかな、然し凛たる音聲。

『さきほどは失禮しました』

突立つた怪漢も落ちついていつた。

『何しに來たのだ?』

『さつきお目にかゝつた時、お約束したものを貰ひに來ました』

『なに? 約束したものを貰ひに來た?』

多賀氏には、少しも心當りがなかつた。で、

『そんな覺えは少しもないよ』

と、きつぱり。

『いや、確にあります。………』

と云ひながら、白濱は膝をおとしてあぐらをかいた。

『どんな約束をしたといふのだ』

『外でもありません。僕はすこしまとまつた金をもらひに來たんです』

『馬鹿なことをいふもんぢやアない』

と、多賀氏は吐き出すやうにいつた。相手のづうづうしさにあきれてしまつたのである。

『でも、さつき持ち合せをやらうとの事でしたから。いや、そんな目くされ金はいらない、いづれ改めてもらひに行くから、まとまつた金をもらひ度いと、云つておいた筈ですが……』

『そんな事を自分勝手にきめて、やつて來たつて誰がオイソレとやるものか。君はどうかしてるな』

『どうかしてるとは何です』

『正氣の沙汰ではないと云ふのだよ。馬鹿か氣狂ひだ!』

『馬鹿と云はれ、氣狂ひと云はれてもかまはぬ。僕は僕の望みをさへ叶へてもらへばいゝのです』

『ぐづぐづ云はずさつさとかへれ!』

『いや、もらふものを貰はねば歸りません!』

『第一、深夜に人の家へ默つて忍び込むといふ事からして怪しからん。やはりぐづぐづしてゐると、ひどい目にあはねばならぬぞ』

『大丈夫、僕は天を翔けり、地に潜ぐる術を知つてゐるから、捕まるやうな事はないのです。然し、僕が斯うしてお願ひしてゐる金は、決して自分一個の私腹を肥やす爲めではない。みな國家の爲めや社會の爲めに役立てるんです』

『いくら、國家社會の爲めでも、法規を犯せば罪人であるといふ事を知らぬのか』

『そんなことを今更聞く必要はない。だが、今は法律や規則に拘泥してゐることの出來ぬ危急の場合なのです。ほんとうに國家社會のためになる人物で、金のないばかりに手も足も出ない者が幾らゐるか分らない。それを一人でも多く起たせたいといふのが僕の心願です。——その心を汲んで、是非一奮發して下さい。金は積んでおくばかりでは何にもならぬ。之れを有用に散ずるところに價値が生ずる。こんな事は僕のいふまでもないことですが……』

白濱は赤心をこめて云つた。落ちついたその態度には、微塵の恐怖もなく、疚しさも覺えず、俯仰天地に恥ずといふ趣きが見えた。さすがの多賀氏も動かされないではゐられなかつた。

『よし分つた。君の氣持はよく分つた』

斯う云つて、多賀氏は靜かに床の上に立ち上つた。そして枕頭の屏風をはねて、押入れの襖をさつと開いた。すると、物々しい大金庫の扉が現はれた。ギラリと光る鋼鉄の金具に多賀氏は手をかけた。

支那の出やうで我方にも直接交渉の準備は出來て居る

我が政府當局の有力意見

【東京十八日發國通】最近支那より外務、軍部への情報を綜合すれば、蔣介石は差當り日本に對し非妥協、非政戰、支那中央軍の非進出を以て時局拾收の根本方針とし、北支が勢力下に安定するを待ち、徐ろに親日策に轉換するの方圖に出んとし、之に就き日本側から積極的直接交渉あるを期待し居るものの如く、蔣作賓公使も近く歸任するに決定し、直接交渉機運擡頭すと觀られるが、之に對し我が政府でも日支局面の轉換準備に、有吉公使と須磨書記官の召還となつたが、日支直接交渉論に對する政府當局の有力意見は左の如し

一、滿洲問題は支那政府の反省を待つが差當り、北支安定上支那政府が滿洲政府を事實上の政府と認め、これとの間に地方的協定を締結せん事が望ましい

一、關稅問題、ボイコット問題、上海事變の最終解決の爲め日支直接交渉するのは望ましく、交渉開始の用意を有する

一、最重大事は蔣介石が國民黨の抗日主義を轉換して誠意を披瀝すべきであつて、此の點に就き誠意がなければ直接交渉時期は來ぬと言はねばならぬ

學良に對する反感愈よ猛烈になる

上海にも居られなくならう

【上海十七日發電通】亡命を傳へらるる北支の領袖學良は過般上海到着以來、その行動に多大の注意を以て觀られてゐたが、去る十五日新聞記者との會見に於て劣惡なる支那軍を以て、精銳なる日本軍に抵抗することは不可能なりとの意見を率直に述べた爲、學良に對する惡評は一層猛烈となり、民衆の學良に對する反感は漸次昂進して來たので學良の身邊も危險の狀態にあり、當地滯在も最早不可能の有樣となり、如何なる方面へ出發するか注視されるに至つた

長城全面の敵

益々攻擊的氣分漲る

【喜峰口十七日發國通】情報によれば北平軍事委員分會は宋哲元に對し兵力の一部を喜峰口西方羅文谷（承德に遵化を繫ぐ要路）方面に移動を命じた、これが爲服部部隊と對峙中の喜峰口前の敵一部は、十六日頃から暗夜を利用し西方に向つて移動を開始せる模樣である、右は張學良が古北口、喜峰口、冷口の各關門を我軍のため完全に奪取されたので、殘る羅文谷の要害に兵力を集中し機を見て承德を衝かんとする作戰に出でたものと見られるかくて長城を中心に全面的形勢を觀察すれば彼我の對陣距離は益々西方戰線に擴大され、山海關より古北口に至る亙境全面に支那軍隊は活氣漲り、今や彼我の關係は非常に激化の形勢を示しつゝあり

熱河省內に

自動車交通開拓

【奉天十七日發國通】滿洲國鐵路總局では熱河討伐終了し省內の治安維持も殆ど舊態に復しつゝあるので錦朝支線北票を起點として省內各地の自動車道路を開始する事となり、先づ北票、朝陽間の開設工事に着手し、次いで北票、赤峰間、北票、承德間等の自動車道路を開設し以て交通不便なる省內の物資搬出に便ならしむべく、目下着々準備中であるが、之れは要する自動車は滿鐵より、人員は奉山鐵道局より夫々供給を受ける筈で、これが實施の上は熱河の特產物を始め各主要品の搬出に限らず、購買品の需給も容易となり、今日まで學良軍兵匪の彈壓に塗炭の苦しみを嘗めてゐた該省住民は、一陽來復の春に遭ひ、滿洲國の王道善政下に樂しみの日を送る事とならう

匪賊ども民團に四散せしめらる

老虎山、凌源、建平の地區には相當多數の熱河正規軍、自衞軍並に學良軍第二九師六十八團の敗殘兵が余喘を保つてゐる、これ等は近く我軍の爲に掃討せられる筈であるが建平に駐留してゐる騎兵旅長趙國增は早くも歸順の意を表してゐる、太平房附近には朝陽に居た董福亭旅の敗殘兵、自衞軍の殘兵が出沒してゐたが十三日以來附近の有力なる民團の爲に四散せしめられた

逃走部隊

承德から潰走した湯玉麟は今尙豐寧にありてしきりに敗殘兵を集めて後方にかくし一方北平にある朱慶瀾に對し軍需品を請求して居る、我軍の攻擊に四散した舊部下湯玉書、張住雲、龍香九各旅の間にも連絡あるものゝ如くこれ等の部隊は逐次豐寧を目ざして集合するものと思はれる

三十余度の寒氣を衝く

北熱河進擊の茂木部隊

―森副官の實驗談―

今次の熱河經略に於て異常の活躍をなした茂木部隊の高級副官森少佐は昨日連絡の爲め赤峰から飛行機で來京したが本日記者團と會見、今日までの同部隊の行動につき概略左の如き實戰談を試みた

×××

今回の熱河作戰に於て一番北の方から行動を開始した我茂木部隊は、偵察、集結準備を整へて、二月二十一日同地出發、前進を始めたが、當日は實に素晴らしい西北風の吹雪で、文字通り咫尺を辨じない天候だつた

道路は雪深く埋れて皆目判らなかつたが、道案內の先導で零下正に三十余度の酷寒を冒して一路西へ西へと前進した跡に雪が堅く凍り付いて轉げる馬が多かつたが、休まず前進を續け、途中小匪賊を蹴散らして二十四日午前十時難無く開魯入城、城門高く日章旗を揭げたそこで僅か約二時間の休養をとつたのみで早速同地出發、八仙洞に向け南進を續けたが雪のため道案內も道を迷つて了つた、漸く老哈河を渡つた頃は日沒となり、雪はやんだが西北風物すごく、寒さ身にしみ、行け共行け共目的地八仙洞にたどり付けず、皆疲勞して口を利く者が無い夜十一時頃になつて遂に兵は雪の中に居ねむりを始めたが寢入つて了ふと凍傷にかゝるので、お互に戒め勵まし、雪の砂丘地帶を難行したが前衞の黑谷支隊とも後續部隊とも聯絡は絕たれて了ひ各部隊共フラフラになつて了つた所が眞夜中懷中電燈の光で突然畑の畝を發見し、程なく犬の泣聲を聞き、次いで數軒の蒙古人部落を發見した時は全くうれしがつた、然るに、あに計らんや同地には餘糧堡の方から來た李海靑の部隊約三千が駐屯してゐることと判明、將兵忽ち活氣勇躍、服部部隊長先頭に立つて敢然夜襲を試みた所、敵は不意を喰らつて周章狼狽、何もかも放擲して、くもの子を散らすやうに南方へ退散した、此時吉野小隊の如きは一軒の家で五十人位の敵匪を殺戮した、かくて翌朝二十五日服部部隊主力は八仙洞に到着、先遣の黑谷部隊は敵陣地を占領、六、七、八と逐日前進、三月一日には既に赤峯の手前三里の地點に達した此間各部隊は日夜不眠不休、一日平均十二里から十八九里の行進で敵より先へ先へと進んでゐた、途中所々井戶はあつたが、さても全軍馬に與へるには間に合はない、兵は水筒を持つてゐるが凍つて栓が拔けない、で兵馬共雪を嚙つて進んだ譯だ、かくて赤峰まで大小十七回の戰鬪を交へて日の晚で、最早赤峰占領もあゝの束の間と全軍の士氣は振ひ立つた、所がその夕方から敵は增加集結、孫殿英の軍隊約三千五百が、すつかり前面の陣地を占領して攻勢を示し小ざかしくも我軍に向つて夜襲を試みること數回に及び、その晚は夜通し彈丸の音が絕えなかつた、これは後でわかつた事だつたが敵は日本軍が來たとは知らず、蒙古軍だと思ひ、さんざん攻勢に出たさいふわけだつた

兎も角夜明けて敵狀判明したが、敵は堅固な散兵壕を構築電話線を引き鹿寨を設け防禦設備周到、中々小要害である我軍は右に黑谷支隊、左に山泥支隊、中央に騎砲兵機關銃隊といふ配備で總攻擊を開始したが、要害に據る敵の抵抗中々頑強で、すばらしい敵戰が展開された、就中堅牢なる散兵壕をめぐらした鉢卷山の高所に據る敵の猛擊は當る可からざるものがあつた、我軍は丁度馬の背の樣な山頂を進擊したので、我軍の損害は相當ひどく、不破中隊長は遂に名譽の戰死を遂げたが、將兵共實に勇敢に奮戰、遮二無二敵陣地に肉迫、敵の堅壘を奪取した、太田中隊の如きは行動の機敏を缺く厚ぼつたい防寒靴を全部ねぎ捨てゝそれを首に吊つて進擊した、敵は三千五百、味方は僅かに二百五十、正に一騎當千の武者振りを示す花々しい戰鬪だつた、我軍の肉迫に堪へかねた、敵は遂に總退却を始めたが、五百六百の步兵集團が、雪崩れを打つて逃げる所を、我軍は松田部隊と協力、全力を擧げての總進擊、敵兵算を亂して斃れる樣は實に何とも壯觀だつた斯くて我軍は一擧赤峰に進入、孫殿英の約七百名が、頑強に守備抵抗したが、先遣黑谷支隊は城門を破壞して東方から入城、三月二日午後五時完全に占領したが松田部隊が赤峰の西方に先廻り待機して退却する敵に猛擊を加へ敵は參謀長を始め多數戰死自動車其他のあらゆるものを遺棄して僅かに身を以て敗走したその後我服部部隊は松田部隊と共に圍場に向ひ目下錐子山、透溢山附近に於て殘匪掃蕩中であるが、何れを見ても皆勇敢元氣に活動、戰鬪美談は至る處枚擧にいとまがない

リツトン卿が「日本の軍隊は皆爆彈の勇士だ」と言つたさうだと確信して居る、が斯くの如く第一線の將兵が強いのは何よりも先づ、國民擧つての後援の賜である、誰一人その屍を拾つて吳れるものも無い、しかも衣服は剝ぎ取られて、眞つ裸かのまゝ打棄てられてある支那の戰死者を見ると、實に氣の毒に堪へない、此度の行動で常に酷寒吹雪にさらされ乍ら、大した凍傷者も出さなかつたのは、完全なる防寒具がよく行渡つて居たのと、自動車編成の輜重が常について居てよく給養を施して吳れたからでそれを深く感謝してゐる、それから飛行機がよく聯絡を取つて吳れ、それが部隊の行動と士氣に著しくアッピールした事だ、敵は何よりも飛行機を一番怖れたのだ

最後に私が、今更改めて云ふ迄もない事だが戰爭は決して負けてはならぬ、退却してはならぬといふ信念を一層深くした何事によらず退嬰消極主義は最も惡い、攻擊に攻擊を加へて行けば、そこに何とか打開策がつく、やはり要は必勝の信念だ

聯盟脫退處理第二次委員會

軍縮會議には參加

十八日は樞府側だけ會合

【東京十七日發國通】帝國政府の聯盟脫退處理案に關する樞府第二次審査委員會は十七日午前九時三十分より樞府事務所內で再開されたが、主として聯盟脫退後の對外方針熱河問題につき質問した、即ち顧問官側より

帝國政府が國際聯盟より脫退するとも、脫退通告後二ケ年間は國際聯盟附屬の各種機關に屬する權利義務を保有する規定あるが政府に於いては、これに參加する意思なるや帝國政府が聯盟を脫退する以上出席を中止する事が至當ではないか所見如何

と質し、右に對し內田外相は

帝國政府は聯盟より脫退するとも世界平和維持の目的達成に貢獻するため、軍縮會議をはじめその他の會議に參加する意向である

と答へ、零時三十分散會した、尙十八日午前九時三十分より樞府側のみの審査委員會を開催して意見を交換する事となつた

脫退通告は廿二、三日頃

同時に聲明書發表

【東京十八日發國通】樞密院の聯盟脫退諸問案の審査は昨日まで事實上終りを告げ本日午前九時半樞府側のみで、委員會を開き意見交換の上、諸問案に對する態度決定し、二十二日午前本會議に上程、滿場一致可決せん政府では當日午後宮中の御都合を伺つて齋藤總理、內田外相が宮中へ參內、上奏御裁可を經て直ちに內田外相がジュネーブの事務局へ全文電送し、澤田局長がドラモンド總長に手交する筈、從つて脫退通告は二十二日か遲くとも二十三日で、これと同時に外務省より通告文と聲明書を發表する筈

本日の會議で

樞府の態度を決定

【東京十七日發國通】明十八日午前の第三回審査委員會は樞府側のみ出席して、委員會の態度につき協議するが、結局委員會は將來の外交方針に關する希望を表明して原案を承認すべくかくて平沼二上兩氏の手許で審査報告書を作成し來る二十二日の定例本會議に上程の運びに至るであらう

漢口の排日

愈よ猛烈となる

在漢邦人に大打擊

【漢口十七日發國通】承德陷落以來當地一帶に於ける排日は俄然猛烈となり、日本人商家に使用されて居る支那人に對してはギャング團を組織してこれに壓迫を加へ、或は日本人との一切の交易を妨害する等、凡有手段方法に依り排日を續行して居る、これがため一兩日來當地に於る日本人との商取引は皆無となり、在漢邦人は大なる打擊を受けて居る尙此の裏面には官憲の魔手あることは明らかで一部人士の間には非難の聲さへ擧つて居る

世界戰爭は避け難い

歐洲諸新聞騷ぐ

【ハルビン十八日發國通】當地に達した情報によれば、歐洲の諸新聞は今や世界戰爭は不可避的だと報じ、各方面に多大のセンセイションを捲き起してゐると

松岡代表倫敦出發

【ロンドン十七日發國通】ジュネーブよりの歸途、數日間ロンドンに滯在、朝野の名士と會見を遂げた松岡代表は十七日正午レビアザン號で米國に赴くこととなり、午前十時八分ウオタロー驛を出發、サザンプトンに向つた

米大統領が議會に

農業救濟法の教書

【ワシントン十六日發國通】大統領は特別議會に對し、緊急銀行對策、政費五億弗節約禁酒緩和等の教書を次々に送りその抱負を實現しつゝあるが十六日第四次教書を送り迅速に農業救濟法を制定することを強調した

政治工作進展著しき

興安省西分省

工作員開魯に入る

【新京十七日發國通】既報の如く熱河省の木倫河以北は興安西分省の行政管下に置かれる事になつたが

『最近』國軍、皇軍協力の結果漸く該地方の治安回復され來たつたので興安總署の政治工作は急激に展開されつゝある即ち興安總署では强て興安西分省政治工作員數十名を現地に派遣したが、工作員一行は難を冒し十二日開魯に入つた開魯は縣の行政は從來、開魯縣行政政府によつてなされてゐたのであるが、十五日正午西分省政治工作員は政府にて縣長外首腦者と會見し、工作員の使命縣自治等に就いて說明するところあり開魯も滿洲政府に締結される以上、今後行政政府は開魯縣公署と改稱するが妥當であるとして直ちに名稱改正を決定した、尙縣長には適當なる候補者が

『着任』するまで、開魯商務會長、姜明遠氏が代理縣長として行政事務にあたることになつた

陽春雪解の黑龍江省

【チチハル十七日發國通】殺人的寒氣で名高い黑龍江省も流石に、陽春三月に入りて以來春光皆く、日中は時に雪どけを見るに至つたが、春耕期近づくと共に、省政府にては春耕資金貸出會議を開き、農民救助の實を擧ぐる一方、一般產業復活開發のため更に各縣の農商務會長等を招集して會議を開き、具體案作成に努めてゐるが、黑龍江省の癌と云はれた匪賊は日本軍の手によりて早くも解消されてゐるので、本年度に於ける產業開發は著しきものありと見られてゐる、建國僅か一年にして王道政治の實を現實に示し、省民一般は今更の如く現政を謳歌してゐる

農業救濟法の內容

【ワシントン十六日發國通】大統領の第四次教書による農業救濟法案は十六日議會に提出されたが、該法案の骨子左り

農務長官に生產者その他と協定し所有基本的農產物の植付段別縮減を規定する權限を附與す、農務長官は右縮減に關聯して保障金を交附することを得る、基本的農產物は小麥綿花、米、玉蜀黍、豚、牛、羊牛乳及びその製產品を指すものとす

產金買上近く再開

【東京十七日發國通】アメリカ金融恐慌で對米爲替が立たないので產金買上を中止して居たが、近く再開の筈、アメリカの金本位制の缺陷が、永續的續くならば從來の弗中心の爲替相場の建を變更し產金の送先もアメリカとするかイギリスとするかフランスにするかが考慮される筈だ

何應欽軍團を改編

【北平十七日發國通】北平軍事分會は愈々何應欽が委員長の職務を代行する事となつたが、同所屬軍隊は右の結果軍團の編成を次の如く改編した

第一軍團于學忠、第二軍團商震、第三軍團宋哲元、第四軍團萬福麟、

人事往來

▲稻葉大佐（教育總監部）十七日正午來京同〇時三十分奉天へ
▲兒島少佐（關東軍司令部附）十七日正午來京
▲劉玉昆少將（吉林警備騎兵第一旅々長）十七日午後四時三十分吉林へ
▲王軍政部次長　十七日午後四時三十分奉天へ
▲世良大佐（關東軍司令部附）十七日午後四時三十分奉天へ
▲河本理事（滿鐵）十七日午後四時三十分大連へ
▲十河理事（滿鐵）十八日午後四時三十分南行の豫定
▲染谷保藏氏（本社代表者盛京時報社長）十七日午後十時奉天へ

熱河票の交換率五十分の一に決定
交換期間は極めて短期間に 近日中發令の運び

討伐なつた熱河省の舊紙幣の處理については滿洲國財政部、軍政部、中央銀行、關東軍司令部等各機關において目下種々協議接衝中で近日中決定發表を見る筈であるが、五十分の一に決定する旨確聞する、要は熱河省內善良なる民衆に動搖を與へぬことが最緊要時とされ、滿洲國政府、中央銀行において無理のない率、無理のない方法によるべく、且つ交換の期間においても湯玉麟一派が幾何の熱河票を關內へ持ち込んでゐるやも圖られず、右交換期間を長期に亘らしめるが如きことあつては熱河票の整理は容易なことではなく、かつ滿洲國財政上にも支障を來すことゝなるので極めて短期間に限定せられることゝなつた

中銀、吉、邦、江行等の名稱を廢止する
次でその土地名を冠らす

既報、滿洲國中央銀行では昨年末以來舊軍閥時代の銀行を合併した關係上各都市に二行若くは三行の支行があるので これをその都市の經營狀態に應じ統一しつゝあつたが、愈よ三月末までには全部の完了を見る事となり、完了と同時に現在の吉字、邦字、江字、行字等の名稱を廢しその土地の名を冠する事とに決定した

私用通信も片端から沒收
ロシアの秘密策 いよ〳〵以て峻嚴

過般チタに發生した暴動を手近かな實例として、最近蘇聯邦內各地に於ける農民と政府の成立關係は著しく尖鋭化し至るところに大小の衝突事件發生の噂とともに今や蘇聯全土をあげて重大危機を孕めるかの如き

＝情報＝ 頻々と傳へられて居る果して如何なる程度に此の報導を信じてよいか、尙ほ若干の疑問を殘すものとも云はれて居るが尠くも此の不穩なる情勢の一端を察知するに足るべき事件として最近次の如き事が指摘されてゐる、即ち蘇聯邦が國內政情の暴露をれて絶へず極度の秘密政策を取りつゝあることは周知の事實であるが、最近國內動搖の報が傳へられてからは其の秘密政策は一段と峻烈の度を增し

＝人事＝ の往來はもとより通信出版物等に對する檢閲等は殊に嚴重を極めて少くも國內の情勢を察知さるゝとと思考さるものに對しては片端より彈壓を加へ些細な私用電報の如きものさへ本年一月より二月に至る僅か一ケ月間に差押へられたるもの七百九十七通に及んで居る、是らは一には國內情勢の他に漏れることを怖れたると同時に愈々尖鋭化しつゝある反政府黨の陰謀を防止する爲と見られるが右去る一ケ月間に

＝差押＝ へられたる私用電報七九七通の內譯は左の如しである

海外渡航に關するもの 一七六通
近親者の安否紹介電報 一九九通
死亡病氣住所變更通知 四一五通
トルグシン經由補助依頼電報 二〇九通
蘇聯より近親呼寄の電報 一通
祝電 一三通

繃帶三百本
關東軍傷病兵に下賜

〔東京十七日發國通〕國母陛下には、十七日畏くも關東軍戰傷病者に對し、繃帶三百本御下賜の御沙汰あらせられたので、陸相代理として合田醫務局長は午後一時半宮中に參內有難く拜受退下した

ケチな邦人
靴泥棒

東京市澁谷生れ關東軍司令部宿舍第四八號小山內文雄(三二)（假名）は十七日午前一時十分頃三笠町三丁目四番地朝鮮料理店、金剛旅館店員李圭贊(二四)の黑皮製短靴一足を同家玄關から窃取逃走中を李に發見され吉野町二丁目迄追跡新京署に突き出された

四洮線復舊

過般來不通となつてゐた四洮線鄭家屯、臥虎屯間は十八日午前六時假線を敷設し、四平街發第二十三列車より運轉を開始した

滿洲視察の便を圖る具體案を考究
總務廳情報所に於て

建設第二期に入つた滿洲國は日本は勿論世界各國よりあらゆる意味に於て注視の的となつてゐるので、解氷期後夏休ともなれば滿洲國視察見學團体、個人が續々と入滿するものと豫測されるので、見學視察の便宜を圖り滿洲國の實狀を紹介する機關の必要を痛感し情報處に於ては目下文教部協和會等と協議中であるが一方滿鐵、旅行案內所、商工會議所等とも連絡をとり、萬遺漏なきを期すべく具体的に研究を進めてゐる

傳染病續發

これから暖かくなるにつれ天然痘、赤痢、腸チブス等の傳染病が流行するが、滿鐵の調査によると三月六日より十二日までの一週間に全滿に於て傳染病に罹つた數は五十八名に上つてゐる、その內譯は次の如くである赤痢四、腸チブス十一、痘瘡十四、猩紅熱二十六、ヂフテリア三、嗜眠性腦炎一

滿洲上海兩事變の戰沒者合葬祭

〔東京十七日發國通〕今回滿洲上海兩事變戰沒將士の爲め小石川音羽護國寺陸軍埋葬地內に合葬の墓を建設、關東軍司令部輜重兵少佐川野寬一、同野戰自動車隊輜重兵少佐淺妻森之助兩氏の遺骨を始め五十二体の遺骨並に遺品を合葬、廿五日午後一時より鎌田近衞師團長等參會して盛大なる合祀祭を擧行する事となつた

滿鐵計畫部の加藤氏
農學博士となる

滿鐵計畫部有機化學班主査加藤二郎氏は昨年十月多年の研究になる「柞蠶の生物化學的研究」並に「大豆油精抽出粕利用の研究」「獨逸に留學中の研究」等の學位論文を東京帝大學士院に提出中のところ

＝此の程＝ 審査を通し十七日の官報で發表農學博士號を附與された、氏は大正八年東京帝大農科を卒業、同十年まで同校鈴木梅太郎教授の助手として研究を積み同年滿鐵に入社中央試驗所を經て現在に及んだものでその間獨逸に留學したこともある、今回の學位論文は、大正十年滿鐵入社以來研究を

＝進めて＝ ゐたもので わけても柞蠶の生物化學的研究は、柞蠶卵子から幼蟲、繭蛾等に至るまでの成育の變化、繭の組成の化學的研究で以つて、柞蠶の改良を目的としたものである、一方大豆油精抽出粕の利用研究はパンその他の用途極めて多く

＝何れも＝ 滿洲にとつては得難き資料として滿鐵でも頗る期待してゐる、因に氏は滿洲事變に勇名を馳せた多門中將の甥に當ると

三人組の拳銃强盗

十七日午後七時二十五分頃市內日之出町六丁目二番地雜貨商鄭萬山方へ三人組の滿人が小窓口から寧柑一箱を買求めた、店員がこれに應じ戸を開くや右客は矢庭に拳銃を突付け家人來客十數名を奧の室に押込み他の二名も同樣に拳銃を取出し店にあつた木製金箱から金票、奉天票等取りまぜ現金五百圓、毛皮衣類一枚時價二十圓を强奪逃走した屆出により新京署では犯人搜査中である

奉天遷都の大與太
頓に人心攪亂
滿洲神社も既に新京に決定

最近奉天より來京した某氏の談によれば、さきに奉天の某紙に滿洲國の首都が

＝新京＝ ではあらゆる點において不便であるから遠らず奉天に遷都に內定し新京の人心に大動搖を來しつゝありと掲載されたところから昨春トビに油揚げをさらはれた如く悲觀した奉天人は如何にもと肯き中には相當知識階級の人々まで、これば信じてゐるものが少ない模樣である、當地某方面の有力者はさうした、根據かもさうした記事が新聞に出たのか知らぬが斯る謠言を放ち人心をまどわせることは

＝隨分＝ 罪な話だと苦笑してゐる。なほ過般來奉天側から猛運動が起されてゐる滿洲神社もすでに新京に決定してゐるものであると傳へらる

共產軍に叩き潰され
討匪總司令辭表提出

〔南京十七日發電通〕江西の共匪討伐に向つた中央直轄の第五十二、五十九兩師は本月七日以來宜黃、建昌附近の戰鬪に於いて共匪軍の爲殆んど全滅し近、損害を受けて再起不能となり、これがため討匪軍總司令陳誠は責任を感じて辭表を提出したが、蔣介石は之を慰留した、尙これに勢を得た同地方の共匪軍は益々猖獗を極め中央でもこれが對策に腐心して居る

映畫青訓の夕

來る二十二日午後七時から新京青年訓練所の主催で西廣場小學校で映畫青訓の夕が催される入場無料、入場者下駄履きは困るから上草履を持參されたいと

青訓座談會

荒木新京地方事務所長の主催で來る二十三日午後四時から西廣場小學校階上應接間で青年訓練所に關する座談會が催される

川島芳子夫人凱旋

滿製ジャンダークとして熱河討伐に參加大いに活躍した、川島芳子夫人は熱河討伐一段落と共に輕快な軍服姿ではしやぎながら十七日朝新京着列車で〇〇氏一行と共に凱旋したが、十八日正午筑紫公館に於て新京記者團と會見して熱河討伐に關する自分の想その他について語つた

滿洲人の好む色と文字（四）

四、色彩

漢、滿民族の色に對する嗜好は極彩色である彩色燦然として一見目を驚かす樣なものが多い、紙は光澤あるものを好み表裏の色彩は判然として同一なるものがない模樣は形の大なるものを好み、色の種類は淺黃、綠、洋紅、桃、藍、紫銀等が最も喜ばれ、白紙は目出度い時には用ひない、之を地方別に云ふと滿洲國內にある人は南方支那に居る者より色彩に對する概念が劣つて居り、田舍の者は都會の者よりも劣つて居る

元來漢、滿民族は色彩についてはあくどく然かも單純な色……例へば赤、黃、紫、青と云つた樣な種類の色及びそれ等の配列から或は色彩感を喜ぶ傾向がある。（時として華麗な彩をその形式的道德觀から喜ばぬ事はあるが）

從つて近代的色彩即ち種々の色の配合から成る間色の中では喜び用ゐるものは少いのである、今左に漢、滿民族が普通喜び好む色彩を原色から間色へと配列して見ると

一、金色此れは最も喜ばれる

二、黃は滿人文明の發源と稱せられ最も正色として愛用せられ前清時代には帝室用の色彩として一般には禁色であつた今も所に依れど尙ほ此の風が殘つて居る

黃を更に小別して

（註）以下色番號及和名は和田三造氏の色名總鑑による

美黃 十五號キイロ
鷲黃 二號カナリヤイロ
杏黃 二十五號ヤマブキイロ

三、紅は吉慶の表徵として最も多く使用され新年吉慶の意を表はすもこれは端午の節句に子供や馬の頭に迄飾らるゝのも即ちこれ、故に中國では喜び事は紅事と稱し凶事は白事と云ふ迄徹底して居る、紅を更に小別して見ると

大紅 七十六號エンジイロ
桃紅 八十八コウバイイロ
水紅 七十四號トキイロ

以上三種は共に淡紅色にして吳服類に使用さる

四、藍色は濃厚なるもが一般に歡迎せられ更に小別して見ると

寶藍 百十五號カツイロ
深藍 百十七ハナダイロ
淺藍 百二十八號アサギイロ
品藍 百十一號グンジョウイロ

五、綠色、綠色は濃厚なるものが喜ばれ更に小別して見ると

油綠 百四十八號ワカクサイロ
沙綠 百三十號ミルアイ及百三十八號トキワイロの中間色
蔥綠 百四十四號ヒワモエギ

而して以上紅綠藍及び此れに青を加へて五色此れを正色と稱す更に一轉して漢、滿民族の好く間色を擧ぐれば

庫大 八十六號ウスクシムラサキ
銀灰 白五十七號ギンネヅ
西湖 白二十三號カメノゾキ
天青 百十號カキイロ
名青 白五十六號コンイロ
洋紀 七十四號トキイロ
葵綠 百五十一號キクヂン
油月 百四十二號セイジイロ
石青 白九號ハナイロ
蒸綠 百三十號ミルアイ
銀灰 百四十號ウラハイロ

磯參謀長の令息
十八日逝去す

關東軍司令部參謀長小磯中將の次男靖之君は豫ねて病氣の爲東京赤十字病院に入院加療中の處遂に十八日午前五時十分逝去した

不慮の厄に逢つた
森氏遺骨還る

過般旅行中不慮の災厄にあひ慘死を遂げた市內羽衣町イゝク商森道雄(二十歲)の遺骨は十八日午後一時三十五分着列車で悲しく歸京した

萬國婦人子供博覽會
久邇宮大妃殿下臺臨

〔東京十七日發國通〕萬國婦人子供博覽會は午前十時から上野竹の臺美術館廣場で總裁久邇宮大妃殿下の臺臨を仰ぎ軍部關係實業家二千名出席盛會した

傷病兵南下

十八日午後零時三十分發列車で新京より十三名公主嶺より十名鐵嶺より九名奉天より廿八名遼陽より二十名合計八十名の傷病兵は大連經由內地歸還の爲南行した

米士官が
滿洲紹介の要を力說

〔京城十七日發國通〕マニラ駐在アメリカ士官三名が香港經由本土を經て東京に行く途次、當地を通過したが、滿鐵沿線の發展振りは驚くべきものがあり、世界人類に貢獻の必要上日本に依つて滿洲を一般に紹介すべきだと語つた

氣遣われた我〇〇機
寬城に不時着と判明

〔喜峰口十七日發國通〕十六日喜峰口附近の敵狀偵察中の我飛行〇〇機一臺は、同日夕刻に至るも〇〇根據地に歸來せず、服部部隊の各隊は今早朝より附近の搜査を開始したが、午後に至り同機は寬城（平泉南方十五里附近）に於て機關に故障を生じ不時着陸し機体を大破したが、搭乘者今西少佐以下五名全部無事なる事判明した

平泉縣住民
近く慶祝大會を擧行

〔喜峰口十七日發國通〕服部部隊占據後の平泉から西南方喜峰口に至る平泉縣、灤平縣一帶は、最初支那軍のデマに日本軍を極度に恐れてゐたが規律正しい軍規と親切な態度に安堵して避難者はポツポツ歸還し、治安は以前に勝る好狀態を示してゐる、これと相俟つて宣撫員の活動は華々しく、近く寬城に於て全村長會議を開催すると共に、地方民の自發的申出により、慶祝大會を催すこととなつた

故山手上等兵遺骨還る

獨立守備隊故山手清勇上等兵の遺骨は十八日午前九時內地還送の爲悲しき凱旋の途についた

四平街便り

滿洲博物同好會 十九日撫順で例會

〔四平街支局發〕四平街尋常高等小學校訓導野田光藏氏の主宰する滿洲博物同好會では本年度第一回例會を撫順に於て開催に決定したが今回は陵南會博物研究部、撫順理科俱樂部と合同左のプログラムにより開催すると

一、日時 三月十九日午前十時二十分撫順炭坑事務所前停留所集合
一、行事 露天堀見學及化石採集、東鄉坑內見學其他散會午後三時迄
八、服裝及携帶品 よごれてもかまはぬ樣な採集用の服裝適當に辨當、水筒採集用具、古新聞紙等用意のこと

大倉きみ子さん等美擧

〔四平街支局發〕四平街小學校尋常科四年生大倉君子さん外三十二名は十五日午後三時憲兵隊を訪れ保科班長に面會熱河に於ける我が軍の疾風迅雷的十倍の衆敵を旬日ならずして擊滅せられたる武勳に感激し級友と相寄り數日來慰問袋三十三個を作り「特に熱河方面に活動中の軍人さんに寄贈して下さい」旨を述べ班長以下隊員一同此の小國民の純情に感激意志にそふべく受納十六日關東軍倉庫經納支庫に慰問文と共に送附した

駒井參議東京驛着

〔東京十八日發國通〕駒井參議は今朝九時東京驛に到着した

日本基督集會

一、日曜學校 午前九時—十時
二、朝の禮拜 午前十時—十一時 演題 來世の福音（吉川牧師）
三、夕の禮拜 演題 彼は世に從へるなり（池上正之氏）どなたも御出席を歡迎致します

三井八郎右衞門男引退

〔東京十七日發國通〕三井財閥の總元締であり三井合名會社々長たる三井八郎右衞門男は本年喜壽の賀を迎えたるを機會として嗣子に家督を讓り財界を引退して隱居願ひを本日提出した

力石雄一郎氏逝去

〔東京十八日發國通〕元大阪府知事力石雄一郎氏は舊臘來十二指腸癌で帝大青山外科に入院加療中であつたが、其後經過良好で退院したところ去る八日腹膜炎を發し十七日午後十一時三十五分遂に逝去した、享年五十八

ラヂオ欄

十九日(日)奉天
奉天前一一、五〇講演赤峰攻略茂木部隊に就て 二一、二〇(內地向)高級副官陸軍騎兵少佐森吾六
新京後五、〇〇レコード
新京後五、二〇演藝
新京後五、四〇講演
東京後六、〇〇ニュース東京中央放送局編輯
新京後六、二〇時事解說（滿洲語）氣象豫報及滿洲語ニュース
新京後七、〇〇演藝
新京後七、三〇音樂（朝鮮）
新京後八、〇〇ニュース（朝鮮語）
新京後八、一五ニュース氣象豫報、放送局編輯及滿洲語ニュース
東京後八、三〇時報
東京後八、三一ニュース東京中央放送局編輯
新京後八、五〇時事解說（朝鮮語）法制局統計處員李康俊（朝鮮向）

けふの銀相場

鈔票 金票 九六、五〇
大洋 金票 九六、一〇
國幣 金票 九六、一〇
大洋 鈔票 七〇、一〇

幕末異聞

愛慾火箭

作　瀧川駿
畫　村瀬洗舟
（上映禁止）

（八）

仇討廻ひ（四）

吹くそよ風に落花は、闇夜に吹雪のやうに散つた。晴れたかと思ふと時雨る卯月の空模様、ばら／＼と音を立てゝ降り出して來た。

源太郎は、衛門備後と別れて、今丁度外濠に添つて駕籠を急がしてゐた時だつた。

と、暗夜に閃く手槍一筋、源太郎の乘つた駕籠を目がけて、躍込んだ。

「アッ」

駕籠舁きは、驚いて暗へ散つた。駕籠に揺られて、うと／＼としてゐた源太郎は、駕籠を貫いた槍の千段巻をしつかり掴つた。

曲者は力一杯に槍を引いた。千段巻を放した源太郎は、手早く駕籠の垂れをめくつて反對の方向へ出た。

第二の槍は同じく駕籠の扉を破つた。

源太郎は、大刀の鞘を拂ふと、槍の千段巻から切り捨てた。

「おや、氣をつけよ」

暗の中で、黒装束の男の聲がした。折柄、ざんと火藥の爆る音がした。

「あつ」

源太郎は、その場へばつたり倒れてしまつた。そして暗を透かしてゐた。

火繩の匂ひが雨に降られて、地に匍つてゐた。

火繩の明りに、細い雨が光つて見えた。曲者二人は手探りながら源太郎に近寄つて來た。

「おい、當つたらしい」

「うむ、うまく行つたやうだ」

二人の覆面した侍は、源太郎の頭の上で囁いた。

二人の内、一人は確に三田學人であると、源太郎は心付いた。

不注意にも、一人の覆面は、源太郎の頭の上に土足を上げやうとした。

「えい」

闇の中で、源太郎の氣合が響いた。

「あつ」

四つの足を斬たのであつた。足のない二人の曲者は、雨溜りの水の中で騒いでゐた。

×　×　×　×

探左衛門の宅の離れ座敷に、差し向ひ會つてゐるのは、探左衛門に、辰見龍藏といふ、堀田（佐倉藩）家の浪人者。しるべを求めて當城下に足を停めてから早十七年、六十の坂を幾つも過ごした頑固な武士。

「大目付堀月殿が、倅探太郎の仇討には、貴殿の息女お千どのをして、夫の仇討に出發させろとあるので御座るが」

言ひにくさうに、探左衛門はぼつり／＼と句切つて話してゐた。

「いや、御尤もな仰せ、倅へ輿入せぬまでも、一旦約束したからは、杯したも同様、婿殿の仇討に發足させませう」

「恐れ入る次第なれど、喜六、忠太夫は御覧の通りの子故、仇討罷りならぬといふ掟、少しの約束を楯に取るやうに御座れども」

「何の夫婦の間に遠慮が入り申さうか、早速立ち歸り娘に申し聞かせ、すぐにも出發致させるで御座る」

「御太刀は、拙者の縁家に當る間市太夫殿にお願ひする事になつてゐるので御座る」

辰見龍藏の戻つて行つた後で、探左衛門は一人、物思ひに耽つてゐた。

「探左衛門殿、在宅でござるか」

枝折戸から庭傳ひに、這入つて來た宗十郎頭巾の男。

「何誰ぢや」

「誰でもない、お土產を寄進に參つた」

そこに放り出された、一包みの荷物。

「開けて御覧あれ」

「何で御座る」

探左衛門は起き上つて包みを解いた。

「あッ」

探左衛門は驚きの餘り、思はず尻餅をついた。

三月十九日　日曜　舊二月廿四日　甲申　先勝　執　盧宿

- 一白の人　外事に係はらず内を守り常業を勵むが安全　乙と亥と丑が吉
- 二黒の人　内より福が湧き外より祿が舞ひ込む如き吉日　乙と庚と辛が吉
- 三碧の人　平靜なれば何事も無難外出は失物に注意日　乙と亥と寅が吉
- 四綠の人　僞ること僞すこと意の如く行はるゝ大吉日　亥と壬と寅が吉
- 五黄の人　待たぬことも向ふから首を縦に振り來るの日　甲と乙と庚が吉
- 六白の人　一家の平和を祝福し外に氣を散らさぬこと　未と庚と辛が吉
- 七赤の人　至誠は招福の基ゐ至靜は活動の第一歩たり　乙と未と亥が吉
- 八白の人　何事も可ならざるなし人の僞をも盡すべし　甲と庚と辛が吉
- 九紫の人　得を人に讓りて身を退けば却て徳を增べし　丙と丁と壬が吉

新京日日新聞
發行所 新京日日新聞社 新京永樂町四丁目一番地

齋藤首相ちかく園公に辭意表明か
愈よ本月末頃に會見の豫定

（東京十八日發國通）聯盟脱退正式通告は二十二、三日行はれるが、その頃第六十四議會も平凡裡に終るわけで、齋藤總理は議會終了後、本月末之れが報告に興津の園公を訪問する豫定になつて居り、その際進退問題に付いて意見交換すると觀られる

議會々期切迫と臨時閣議

（東京十八日發國通）議會會期の切迫に依り政府提出案の處理に就き、十七日午後四時院内に臨時閣議を開き、山本内相を除き全閣僚出席して協議したが

一、東京都制案審議未了で斷念の外ない
一、選擧改正案昨日委員會で審議中止となつたからには斷念の外ない
一、負債整理案成立の見込み
一、恩給法改正案、滿鐵株式引受法案、意匠法改正案、成立見込み目下貴院で審議中の下院送附の議會振肅案は左の通り答辯と決定
一、常置委員會を設定することは憲法の精神に合致せず、議會なき時は政府に充分行政能力を發揮さすべきだ

各重要法案とも通過の見込み
政府の努力次第で

（東京十八日發國通）政府は十七日の臨時閣議で政府提出法案中目下議會で審議中に屬してゐる重要法案の審議促進方に就き協議する處あつたが目下貴族院で審議中に屬する重要法案は

＝恩給＝法中改正法律案、米穀統制法案、日本製鐵株式會社法案、鐵道敷設法中改正法律案、農村負債整理組合法案滿鐵増資案等であるが、其の中恩給法改正案は大體通過の見込みであるが、更に一段の努力を拂ふと米穀統制法案は通過するであらう、又日本製鐵株式會社法案卽ち製鐵合同案に關しては尚多少の論議があるとしても通過は確實であらう、尚鐵道敷設法改正案並びに滿鐵増資案はこれ又周圍の狀勢から見て

＝通過＝する見込みでありたゞ農村負債整理組合法案は十七日の本會議で漸く委員附託となつたものだが、これも會を披瀝して努力せば、政府で誠意通過は確實だといふことに決定した

民間の意見も取る
爲替管理案

（東京十八日發國通）爲替市場の制明的立法たる爲替管理案實施に關し、大藏省では省令制定を急いであるか、結局四月早々實施さる模樣、爲替管理法實施の上、諸關係機關の爲替管理委員會に施行機關の爲替管理部を設置するが議會の希望もあり、民間爲替專門家の意見も聽取する筈

貴院本會議
各案一瀉千里に解決

（東京十七日發國通）貴族院本會議續行!!次で日程に入り關稅定率法中改正案昭和七年法律第四十五號中改正法律案を一括上程、堀切次官說明後九名の委員に附託、農村負債整理法案を上程し、後藤農相の說明あつて十五名の特別委員に附託、農業動産信用法案漁業法中改正法律案の二案を議題とし、同じく農相の說明あり、三室戸子の質問あつて後既設委員に併託、次いで震災罹災者に對する租稅の免除等に關する法律案を上程、これ又既設委員に併託、更に昭和五年度第一豫備金支出の件外十件の承諾を求むる件を一括上程、堀切次官より說明あつて後九名の委員に附託し一瀉千里に日程を進行、外國爲替管理法案を上程、委員長兒玉秀雄伯より委員會の經過を報告、大河内輝耕氏の質疑あり、報告通り可決確定、次で大正二年法律第九號中改正法律案、擔保付社債信託法中改正法律案の二案を上程、富谷委員長より委員會の結果を報告し、異議なく可決、次で刑事訴訟法中改正法律案、漁業施行法中改正法律案を順次既設委員會に併託、最後に大正七年法律第四十三號中改正法律案を上程、中野門委員長の報告あり、異議なく可決確定午後零時十六分散會した

政友の反對で握り潰し
選擧法改正案

（東京十七日發國通）衆議院議員選擧法改正案は、政府の提案が遲かつたのと、政友を始め關係方面に通過を喜ばざるものあり、審議遲々として進まず、今日に至つたが、十七日の同法案委員會に於て、政友の安藤正純氏より同案の審議中止を提議し、民政黨之に反對したるも、多數を以て審議中止に決定したこれで同案は完全に衆議院で握り潰される事となつた

熱河討征から川嶋芳子さんの凱旋
定國軍の工作から解散まで
その經緯をかたる

定國軍司令官として熱河自衛民軍三萬を指揮し、熱河討征の日滿兩軍に呼應し熱河討征工作に活躍してゐた女將軍川島芳子孃は熱河討征も一段落を告げ定國軍としての戰事工作使命も終りを告りたので、十六日北票發十八日午前八時新京へ歸着したが戎衣を脱ぐこともそこ／＼に正午から錦町筑紫公館に在京記者團と會見し、定國軍組織の動機其戰事工作から解散に至るまでの經緯に就き大要次の如く語る

今回自分が指揮した定國軍といふのは數年前から、熱河省内に自衛の目的で訓練されてゐた純然たる土民軍であつて第二定國軍とは全然其質も系統も異つてゐる、其定國軍が略奪、暴行をしたかの如き見角の不評が宣傳されてゐることは全く間違ひで自分はこれを非常に遺憾に思ふ、顧みると昨年の十一月二十一日であつた、自分は所要があつて六連に往つたことがある、其

＝列車＝の中での出來事である後で定國軍の參謀となつた方永昌や菊竹さんや、張燕卿などと食事をしてゐると其内に方永昌が所要で席を立つた後に一日本の紳士が來て懸けようとするので事情を話して斷つてゐると、其後に綿服の見すぼらしい滿洲服の老人がよろめきながらやつて來たので自分は名も知らない老人であるが可愛相になつて之れを援け起して其席にかけさせ

＝食事＝を共にして自分は約束してあつた自分の寢台に歸つた老人は其時に非常に喜んで禮をいつてゐた、暫くすると自分の寢台の處に來て土下座して參拜九拜する者があるので見ると前の老人であるので一たいどうしたことだと尋ねると實は高貴のお方であると自分は知らず同席して食事をしたがこの罪はどうして償つたらよいでしょうかと恐懼してゐる始末に今度は自分の方が

＝氣の＝毒になつてドキマギして終つた、お前は誰れかと聞くと熱河民軍を代表して新京に往つてゐた李鍋九といふものださうでここで種々話で滿洲をして見ると熱河民軍のことも軍政軍の北票參謀などとも意見の交換をしたが意見が一致しなりので熱河に歸る處だといふことであつた夫れに就いて自分の意見も述べたところ是非とも民軍の司令官になつてくれとの懇請であつたから

＝幸ひ＝自分も奉天に下車せねばならぬ所要もあつたから奉天に下車し、日本軍が今度滿洲國建設に就いての友交的援助其他も充分納得のゆくように自分から話して兎に角そわいふものを組織するにした、處でこれ以上關東軍司令部あたりに御世話になるに忍びなりからやるとすれば各自私財を拋つてやらうといふことに話が纏つて先づ錦州に

＝辦事＝處を設け熱河の宣傳工作に着手した、卽ち當時は幾多反滿抗日の傷勇軍が熱河省内には滿ち／＼てゐたからポスター其他の物的宣傳が出來ないから口から耳への宣傳をやつた、この口から耳への宣傳は、相當に効果を收めたと自分は信ずる、夫れ迄熱河省内の民衆は滿洲は全く日本が占領でもしてゐるかの如く信じてゐた、新らしい滿洲國が

＝建設＝されたなどと知つてゐるものは一人もなかつた、夫れで自分は熱河省内到る處網の目のやうに連絡を取り散在してゐる部下三萬の民軍を指揮して極力新滿洲國の建設された所以、日本軍が滿洲の建設を極力援助してゐる所以を口から耳へ傳へさせた、其内に熱河討征が開始さるるや日滿國旗を是等民軍の手を通して朝陽進出、赤峰と次から次へと送りつけた、日本軍の先發軍が朝陽や

＝赤峰＝などを占領した時日滿國旗を打ち振り土地の民衆が歡迎したといふのは前以つて定國軍がこんな隱れた仕事をして置いたからだと自分は信ずる、其他に定國軍は或るは日本軍の道案内などやつたこともある、二月二十八日熱河討征も一段落を告げたので定國軍としての戰時工作も終りこれを政治工作に利用されば相當効果を擧げると思つたので其方面に利用すべく一應解散し

＝政治＝工作と民衆と軍と連繫をとる積りでゐた處本月の八日九日、十日の三日に亘つて第二軍と定國軍とが衝突して終つた、それがため定國軍が掠奪した、爲めに解散されたかの如くに傳へられてゐることは自分として誠に遺憾で之れは全く誤傳であることを一般の人達に知つて貰ひ度い、之れが爲め民國政治工作も今の處一頓座の形ですから自分としては茲一週間もしたら一時別府にでもゆきたいと考へてゐる云々

大衆の投資を仰ぐ方法で新株募集
ほつと一息で八田副總裁歸る

（大連十八日發國通）滿洲の新事態に處する滿鐵の資金調達を決する株主總會に出席するため、約四十日間に亘り上京中であつた八田滿鐵副總裁は、朝八時半入港のアメリカ丸で夫人、令息、松本秘書同伴歸任したが、氏は増資問題の重荷を下し朗かに語る

＝増資＝決定をお土産として今熱河も豫想外に早く平定し皇軍に對し感謝の外はない増資問題も非常に順調に進み、三月六日株主總會を開き原案通り可決した、その後、政府案として議會に提出すべき増資案に伴ふ法律案、豫算、附帶法令等に付ては二月中政府當局者と打合せたが、三月十日の閣議で

＝決定＝十一日衆議院に提出、十三日より特別委員會から開かれてゐるが、通過の見込もついたから歸つて來た増資に伴ふ諸手續かすめば會社の財政基礎も確立するが、之に從つて使命も重大さを加へるわけで、一層滿洲の交通、産業の發達に寄與すべく奮闘する、株式募集方法についても財界の情勢を見た上事態に適應し一般大衆の投資を仰ぐやうな方法を執りたいと思ふ、昭和製鋼所問題は伍堂理事が折衝を重ねてゐるが、大体政府の

＝同意＝を得たので新年度より愈々建設に着手する事にならう

尚八田副總裁は大連に於ける要務を濟ませ次第新京に向ふ筈である

地方長官會議
四月十日前後召集

（東京十八日發國通）本議會も後一週間を以て大体終りを告げる事となつたが、政府は四月十日前後、地方長官會議を召集、議會を通過した各種案件の實施に當り、その趣旨を徹底せしむると同時により効果あらしめる事となつた

青年移民教育
各高等農林學校で
いよ／＼實施されん

（東京十八日發國通）文部省では今議會を通過した移民教育費三萬六千圓をもつて、滿洲、南洋、ブラジル等に勇飛すべき青年を養成すべく成案を急いでゐるが、次ぎの如く決定を見る模樣である

卽ち移民希望の身体强健、思想堅實なる青年約三百名に對し一年間に亘つて移民教育を施すものでおは學歷等一切の入學資格を要せず大体盛岡、三重、鹿兒島又は宮崎の各高等農林學校内に依つて教育する筈である

佛伊の調停に
マック首相が乘出す
ムツソリーニと會見して
軍縮會議を救はむ

（ジュネーヴ十七日發國通）英國首相マクドナルド氏のローマ行きについては英國官邊は依然沈默を守つてゐるがマ首相がムツソリーニと會見するためローマに向ふ事は確實だとされてゐる、右につき信憑すべき筋よりの情報によればマ首相はムツソリーニと會見して危機に瀕せる軍縮會議の局面を打開し併せて歐洲各國の勢力均衡維持策につき具体的意見の交換を行はんとしてゐる、軍縮會議に對する佛國の態度は現在の對獨伊關係に鑑み軍縮反對の意向を有してゐるので軍縮會議は佛國の出様によつてはお流れとなる恐れあるためマ首相は佛伊兩國の調停に乘り出さんとするものである、右マ首相の企圖が具現化する時は全歐洲の情勢を一變し去るものとして各方面の視聽を集めてゐる

獨逸から使節
共産黨彈壓で蘇聯に大衝動

（ベルリン十七日發國通）ドイツ官憲が多數の共産黨員を逮捕し一大彈壓を加へた事はモスクワ方面に多大の衝動を與へつつあるに鑑み、ドイツは露獨關係の悪化防止策として使者をモスクワに特派し、友好關係の持續に努むる事となつた、尚ヒットラーの使節は露佛兩國の接近を防止する重大使命をも帶びモスクワに乘込む筈である

新軍縮案と—
我陸軍當局の見解

（東京十八日發國通）マクドナルド氏が十六日一般國際軍縮會議委員會に於て提議せる新軍縮條約案に對して陸軍は報告の到着を待つて、關係當局で我が陸軍の態度を考究することとなつたが、同案に對する陸軍當局の意向は左の如し

一、各戰鬪員については服役最長期限を八ヶ月と定めることは歐洲大陸諸國に對するもので我が國にには關係ないが之を歐洲以外の國にも基準とする時は、我が國は現在在營一年半であり、從來の訓練の上からも短縮至難であつて、これが爲め經費は非常に增加するから同意は出來ない、又歐洲大陸主要各國に對する賃戰鬪員數をフランスがドイツと同兵力の二十萬にすることにフランスが絕對に同意せざる事は明瞭である

一、備砲機材については移動陸砲の口徑百五十ミリとする事には同意出來ぬ、海軍防備砲の最大限度を十六吋とする事は差支へないタンクの最大限度を十六噸とする事は英國に都合のよい案で、フランスは六十噸、日本は二十噸を主張してゐるから同意出來ない、佛、日、伊、露、米、英六ケ國の軍用飛行機を五百臺に制限する事を日本は絕對同意出來ぬ、飛行機は軍用機と民間機とを區別する事は困難であり、民間機を我が國の十倍も二十倍も有する英米と同樣に制限される事に同意出來ぬ

戰債問題の英米會議延期
ル大統領外交政策

（ニューヨーク十七日發國通）米國の金融恐慌の結果戰債問題に關する英米兩國代表の會議は四月乃至は五月頃まで延期の已むなきに至つた、從つてマクドナルド首相のワシントン行きもお流れとなつた、

尚デイリーテレグラフ所報によればルーズヴエルト新大統領の外交政策は國際聯盟との協調に重點を置く事になるだらう、また輸入稅の改正、蘇聯の法律的承認問題も重要案件となつてくる

山本伯容態

（東京十八日發國通）山本權兵衛伯は、一週間程前から攝護線肥大の症狀で高輪臺町の自邸で馬場主治醫の手當てを受けてゐるが、當分絕對安靜を要する容態で、目下のところ危險といふ程ではないが老齢のこと故、家人案じてゐる

新京各銀行預金並に貸付高

二月末の新京全銀行の預金及貸付高は次如くである

△金預金 三三一、九八〇、四六五・八五（前月より增加額 一、三五一、三三一九、二四）
△鈔預金 二一、八五四、三六三、四三（前月より減少額 一、九五九、五七八、一四）
△金貸付 八、一三一、四三〇、三五（前月より增加額 一〇、四七五、六八）
△銀貸付 九五九、七三八、二四（前月より增加額 八三、一八五、一八）

一人一話
便衣隊 櫻井忠温

支那では便衣隊と言ふのが盛んに跳梁する、これは實に便利な隊で、兩軍が戰つて居る間は農夫に化けて、銃器は土に埋めて形勢を眺めてゐる、一方が勝つと見込みがつくと、銃器を取出して、弱い方をやつつけて了ふ、そして勝つた方へ行き、いくらかよこせと强請るのである、便利な隊である。

天氣と氣象

けふの天氣北西の風晴、十八日の氣溫最高二度九、最低零下十度五

公告

今般弊社新京上下水道關係工事專業請負人ヲ昭和八年三月十六日以降左記ノ通變更仕候間此段公告候也

記

新請負人 市瀨工務所
舊請負人 阿川組

昭和八年三月十五日
南滿洲鐵道株式會社
新京地方事務所長 荒木章

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替
倫敦銀塊 一七片八分五
同遠限 一七片一六分一二
紐育銀塊 二六仙〇〇
孟買銀塊 五七留比〇〇
日爲替 [illegible]
米英爲替 [illegible]
米支爲替 [illegible]
スチール株 [illegible]
アナゴンダ株 [illegible]
●印 ベンゴール [illegible] ブローチ [illegible] オムーラ [illegible]

▲上海標金 昨値 高値 安値 本寄値 歩 [illegible]

▲上海日本向 第一回 第二回 第三回 [illegible]
▲上海倫敦向 [illegible]
▲上海紐育向 [illegible]
▲大連鈔票 現物 近付 寄付 歩 [illegible]
▲大連上海向 引止値 高値 安値 出來高 [illegible]
▲大連煙台向 [illegible]
▲阪神日米爲替 第一回 第二回 第三回 [illegible]
▲阪神日英爲替 賣値 買値 出來不申

各地市場

▲大阪株式 [illegible]
▲同 短期 大新 新 新 [illegible]
▲大連株式 鐘紡 [illegible]
▲大阪三品 [illegible]
▲大阪棉花 [illegible]
▲大阪期米 [illegible]
▲仁川期米 [illegible]
▲横濱生糸 [illegible]
▲神戸豆粕 [illegible]
▲大連特産 ●大豆 ●豆粕 ●豆油 ●高粱 ●小麥 [illegible]
▲哈爾濱特産 ●大豆 [illegible]
▲カルカツタ麻袋 [illegible]
▲大連麻袋 [illegible]

新京市況

入豆 現物 [illegible] 出來高 [illegible]
高粱 [illegible]
銭鈔（現物） 鈔票對金票 大洋對金票 國幣對金票 大洋對鈔票 [illegible]

陽春近く滿鮮視察の變り種

學生使節一行が自動車で滿鮮踏破

松井教授始め明大の選手連 先發隊來京して打合はせ

春近く解氷の季迫つて滿鮮視察に來る人々の群れは今年は一層多からうといふので關係當局ではそれぐ手具脛ひいて待ちあぐんでゐるが、こゝにその代表的な話題の一つ、日滿親善、經濟調査を目的とする學生使節一行九名が自動車二台に分乘して滿鮮各地を一周しやうといふ、既に先發隊は數日前來京、滿鐵地方事務所を始め各方面と旅程その他について接衝をつゞけてゐるが、多分陽春五月を期し行はれる模様である

右壯擧は明治大學自動車部の計畫に成るもので一行の顔觸れは同校

＝教授＝ 松平康昌氏を代表として自動車部選手たる同大學々生 山崎辰次、八木賢、柿沼長治、西風正一、大庭義伸、加瀬恒三、平岡治、土居節夫の諸君で國産貨車二台に分乘して東京を振出しに神戸に至りそこで乘船して大連に着くと同市内を調査後再び自動車を驅つて旅順、奉天、新京、四平街の各地を巡歴し、こゝで自動車を停めて汽車で洮南チヽハル、ハルビン、吉林を視察し再び

＝新京＝ に引返し、これから又も自動車で奉天、安東、平壤京城、大邱、釜山、横濱を經て東京に歸る豫定であり、一行の目的は滿洲、朝鮮軍並に在滿同胞の慰安並に滿洲、朝鮮都市接續道路調査、經濟調査、滿鮮自動車に關しての調査、選手耐久力の調査をなすこゝもに慰問品サンプルを持參して滿洲國に獻納し、また滿産品を募集して歸京後東京を始め内地各地で展覽會を開き、また講演、放送なども行ふことになつてゐる、同一行は

＝既に＝ 昨年日本一周旅行に成功した体驗があり滿鮮一周は勿論最初の試みであるがこの意義ある壯擧をぜひ完全に成功させたいと目下準備に熱中してゐる

震災義金五百圓 料理店組合から

新京長春料理店組合加盟日鮮人四十三軒の家族六百八十名は零細な金を集め合計五百七十四圓六十錢を醵め東北地方震災義捐金として十八日同組合長瀧竹三郎氏が右金額を新京警察署保安係へ届出た

いぢらし

少女の眞心

勇士達を泣しかむ ある貧しき家の子から 慰問袋が贈らる

身に不自由な滿洲の僻地で奮闘を續けてゐる我が皇軍に熱情こもつた、慰問袋が續々として送られてゐる、配給された將兵達はいづれも嬉しげに開きながら感謝の涙にくれてゐる、この慰問袋にいとも氣の毒な一少女が、愛國心に燃へ古人形、古手拭(洗濯をしたもの)古鉛筆三本、古教科書一册に身上を記した手紙を添へてあり見るもの聞くものをし感泣せしめる美談があつた

目下海倫駐屯第〇聯隊第〇中隊高林軍曹に去る三月一日配給された慰問袋内に、古手拭古鉛筆三本、小學教科書、古人形一個に手紙を添へてあつて受取つた高橋軍曹が開封すると

兵隊さん、わたくしは父かしんで母にそだてられております外の人はお金などをたくさんもつて行くのですがわたくしの送るものはこれだけです

茨城縣郡河部添町尋常高等小學校二年 澤島ミツイ

(原文のまゝ)と認めてあつて讀み終つた高林軍曹は深く感激し語ることも出來ず溢れ出る涙を押へ何回となく讀み返したのち、右慰問袋を中隊長に届けたが、中隊長も同様感激し憐れな少女に慰問がへしとして全員を集めたの如く訓辭をなした、將卒いづれも感泣に打たれ右少女に對し一人宛金三錢以下を醵金し合計一圓五十錢を小學校長に宛て送附した、

中隊長の訓辭

「斯くの如き貧困なる一少女と雖も忠君愛國の熱誠が充滿し自分の大切なる品物迄も慰問品として送仕し來たるは實に感激に堪へず我々は益々國家のために盡くし國民をして安堵せしめざるべからず」

なほ中隊長から同小學校に宛てた手紙の内容

貴校一女生徒の燃ゆる愛國心に我々將兵及滿洲國人は大に感動し益々盡忠報國の至誠を全ふする考へなり、同封しある金額は小額なるも將兵及滿洲國人の心から醵出したるものなればこれを少女に渡されたし

教育資料に永久的に保存 海倫縣廳で讓受け

右美談を聞いた海倫縣廳では軍隊と打合せの末右慰問品全部を縣に貰い受け縣の教育資料として永久的に保存することになつた、なほ中隊長の宿泊所である廣信公司勇曹經理(滿人)では中隊長から事情を聞かされ感激し江大洋十圓を右少女に送つて下さいと届けた中隊長は有難く受け取り同小學校長宛送附した

滿蒙進出發展の原動力

自力更生の道は安價生活にあり

醫學博士 松浦有志太郎

(三)

醫學も亦全然それを裏書きして殘す處はない、全く百害あるも一利益なきものである、その委細の事は茲に略するがその酒代が一年十五億圓此が我國民が一年に飮みつぶす日本酒丈けの價である。之を三百六十五日に割りて一日の酒代四百萬圓、此の四百萬圓あれば軍用飛行機が毎日々々五十台出來る、その外失業救濟でもなんでもかでも思ふ存分十分に施設する事が出來る、こんな莫大な金を酒に飮みつぶしてその得る處は不健康、病氣、短命、喧嘩、口論、不品行不道徳、犯罪等々々、實に酒を飮む事は不經濟、不衞生、不道徳の最大なるものである

四、食物。食物なくては人は生きて行けぬ、人は天地雨露の恵を享けて此の世に生れて來た、さうして生きておるたしかに人間よりも遙かに偉大なる力のがあつて我々人間に、アラユル生活に必要なる、資料をば只で無代價で與へられて養ふて下さるものである、神様とも、佛様とも、その御名前は人々の心次第につけてよろしい、別に御名前のある方ではないが我々に、我々の生命をも、亦その生命を維持して行くに必要な丈けの資料、日光、空氣水食物を只で與へて下さる事は確實な現前の事實である、我々は只々それを口を開き鼻をあけ、手を出して感謝して頂けばよいのである。此の土地即ち田園は自然から、神様から、我々人間に生活すべく與へられた場所である。農業生活は根本生活である、最も正しき誰れしもがなさねばならぬ基本生活である、大工も左官も醫者も僧侶も教師も官吏も又その家族等は勿論、皆その餘暇を以て耕し耘り種を蒔き水をそゝけ、然らば其要する食物の大部分は只で與へらるゝであらう」一農夫耕さば數口の家は居ながらにして穀物蔬菜を只で食し其餘分を人に施す事も出來る。一漁夫漁せば數口の家族は居ながらにして新鮮の魚介に飽きその餘分を以て人に施す事も可能である。人間が正しき生活に還る時皆この様になるのである

夜は明るく……新京の銀座街を現出

まづ吉野町二丁目から 日本橋の電化進む

既報、吉野町二丁目、日本橋通中央通驛前廣場の四ヶ所に街燈を設け夜の新京を薄暗い陰慘さから救ひ眞に首都として恥しからぬ明るい街にすべく、二月以來滿鐵地方事務所町内會の三者が寄り協議中であつたが此程吉野町二丁目だけ滿電が引受け工事を開始する事に確定し二十七日に滿電主催の街燈の說明座談會を開催する事になつた、新設される街燈は滿洲國建國記念街燈と名付け高さ四三米のすゞらん型の美麗なもので三十本を兩側に對照式に五百ワットの電球をつけたて日本橋通りよりの入口には長さ六尺巾二尺に「お買物は新京銀座で」と書いた兩面より見える矢形のネオンサインを

＝設置＝ し矢の方向を吉野町に向けた堂々たるもので總工費は四千四十五圓、目下滿電から大連へ注文してあるが、六月一日の夜店の出るまでには完成する豫定である、なほ日本橋通中央通驛前も四月中には決定を見る模様で日本橋通りには高さ五メートル五百ワットのオーナメンタル二燈用ポールヘッドを千鳥式に五十二本總額一萬二千七百八圓五十四錢、中央通りには高さ五、五、同型のものを千鳥式に四十八本

＝總額＝ 一萬一千四百六圓驛前には高さ七メートル同型のものを十二本費用三千五百二圓とする事に決定する模樣で之等の街燈が建設された曉には夜の新京はさながら眞晝の如く輝く街頭ネオンサインに近代の都會美を遺憾なく發揮し首都の面目を備へるものと一般から大いに期待されてゐる

一日の飛行實に百時間に上る

全く驚くべきわが空軍の奮闘 辻飛行隊長と語る(下)

作戰開始以來三月十日迄吾飛行隊だけでも七百余時間十萬數千粁の航程を飛んでゐる、赤峰、承徳入城前の戰況高潮期には一日の飛行時間實に百時間に達し一萬數千粁翔破してゐる、中には一回の出動時間七時間余を要したもの少くない、恰も一氣に東京から朝鮮まで、或は奉天から内地まで直線飛行したのに匹敵す、而も此の間敵彈雨飛の間を縫ふて搜査に連絡に將た陣地攻撃に活躍したのである、殊に赤峰、承徳を逃げ出す大縱隊に向かつて攻撃したときや湯玉麟山、長山谷、古北口、喜峰口附近の激戰や又冬期門附近へ山岳地帶の協力に於て各機相當の敵彈を受けた中には廿發近い彈を受けたものもあつたが三月中旬迄には未だ一名の犠牲者も出さなかつたのは、天佑とは云へ一般に士氣の緊張してゐたお陰で誠によろこばしい

□ □

偏勇軍跳梁の熱河省、山海關事件以來、學良の正規軍が界嶺口、冷口、喜峰口、古北口等諸關門を越えて續々熱河省内に進入する、北滿方面にて敗退した兵匪、雜軍は熱河省内に遁入して虎視耽々として打通線方面を窺つてゐた、これ等の監視に兵匪の掃蕩に、將又地形的陣地の偵察に一月から二月にかけて長驅して遠く省内を飛翔した當時は勿論反軍は一兵もゐない、兵匪、反軍が省内に充滿してゐたのだ此の偵察機の心勞は友軍と呼應して華々しく活動するよりも寧ろ更に大なるものがあつた、然し此苦心が今回の熱河攻略の大成功によつて酬ひられたのは何よりの慰めである

□ □

本作戰間に於て機体、發動機は故障なく思ふ存分活躍し得た裏面には、地上勤務に從事した下士官、兵、職工の精神的情熱と白熱的努力による偉功を見逃してはならぬ、拂曉前の零下十數度寂寞たる飛行場の闇を蹴つて出動する飛行機の爲には夜半より之が準備にかゝらなければならぬ、光明の輝く限り彼我の落着く所を見定めて日没後歸來したる飛行機の點檢手入を終へて、翌日の飛行に差支なき迄に整備の終るのは夜の九時以後である

□ □

飛行機が飛出して時々入電する機上無線に耳をそば立て、其の安航を祈りつゝも無事歸還の姿を見届ける迄は氣に懸る、歸還豫定時刻に近づけば一同飛行場に飛び出して今や遲しと遙か彼方の空を見守つてゐる、歸還豫定の時刻は過ぐるも姿が見えぬ、機付兵一同額を集めて心配顔に默々たる姿は傍に見る眼も痛ましい夜間突如烈風が起る、風の方向が變る「警戒の聲に暖い夢を破られ、枕を蹴つて寒風肌を刺す飛行場に飛び出して、飛行機の方向を繫留換をする深夜銃聲を耳にしては、我愛機の安否を警戒する、降雪に見舞はれた機翼の積雪を拂ひのける等、不時の仕事は一週間に二三度は必ずあつた

□ □

以上は機付兵の苦心の一端を述べたに過ぎないが寫眞、無線、爆彈、機關銃、自動車等々各工手はやつぱりそれぞれ裝備に補充に將又故障修繕に絶へず絶大の苦心と努力を拂つたのである、最低氣溫零下二十度內外の寒風に曝され作業服の儘火氣禁物の作業に油だらけになつて働く勞苦は並大抵ではない、かくして空中勤務者に器材に關する限り些の懸念なく、一意任務に邁進せしめる事を得しめたる機後に於ける地上勤務員の心苦と勞苦とは大いに認めてやらねばならぬ、吾輩は飛行機に何等の故障なく連續第一線に活躍し得しめた場合は機後の勤務員に對し正に偉大なる功績として、これを稱へたいと思ふ

□ □

まだまだこれからだ、熱河は旬日ならずして平定したと稱へるのも結構だが、もう事業は濟んだ様に取られるのは心外だ、あの曠漠たる廣野に僅少な兵力を以て警備に任ずる部隊、河北省北部に張ち切れる程うようよして居る大軍に對し、交通不便物質缺乏の山間の關門に寡少の兵力を以て守備の大任に當つて居る部隊蜒々數百キロ晝夜を別たず、不良の道路に兵匪の脅威を物ともせず活躍してゐる兵站輸送部隊等の心苦と勞苦は容易でない

解氷期も近い冬から夏に急轉する滿蒙だ、惡疫の本場だ、交通々信極めて不備な熱河の守備はこれからが更に骨が折れる、吾人はこの地上軍隊の苦難に對し眞に同情すると共に其の崇高な努力に對し衷心感謝に堪へない、假令一枚の新聞一片の罐詰でも第一線の部隊に届けねば氣が濟まぬ、少々廻り路しても兵站線路上を飛んでやりたい氣持でゐるのだ

服部部隊奮戰の跡

(喜峰口十七日發國通) 喜峰口一帶の長城線をはさんで目下學良有力軍に對峙し各方面の視聽を集めつゝある服部部隊は討伐行動開始以來左の如き壯烈なる戰跡を殘してゐる

一、會戰せる敵集團は十三ケ旅その總兵數約六萬

二、戰鬪回數、米山部隊は紗帽山冷口初め十七回、松野尾部隊は喜峰口、潘家口初め十四回、鈴江部隊並に他部隊は喇嘛洞乾溝鎭初め十四回總計四十五回

三、敵に與へた損害、敵の遺棄死体約三千、負傷無數、鹵獲品多數

四、我損害戰死八十六(內准士官以上九名)負傷(凍傷を含む)百二十名

慰問袋を贈る 新京滿鐵社員會で

滿鐵社員會新京聯合會では今回の熱河討伐に際し皇軍將士の勞を多とし在京約千名の會員金部から慰問袋、一人一個以上の豫定で各分會を經て來る二十三日までに取纏め奉天驛長を經て熱河方面へ送ることゝなつた

新聞慰問使 福安氏ら來滿 各社へ謝狀を贈る

(奉天十八日國通) 日滿友交と滿洲國の輝く王道樂土建設のためひたすら新聞奉公の重大使命を一本のペンに託して滿洲事變以來活躍を續けてゐる在滿新聞通信社及び今次熱河討伐戰に當りて勇猛果敢なる我が將士と共に壕を堀り

＝敵彈＝ をくゞり辛苦を日月して王道樂土建設のかくれたる力をなしてゐる各新聞特派員の涙ぐましき勞苦を親しく慰問し且つ其の戰線のかくれたる新聞勇士等の活躍實況をつぶさに母國に報告發表すべく「新聞慰問使」大阪日刊新聞興信所報總編輯長福安美好氏は去る五日以來、大討伐の最後を飾る通信戰の眞只中に錦州山海關を初め第一線を訪ひ、親しく慰問した上、十四日

＝來奉＝ 各新聞通信社を歴訪慰問をなし、全滿新聞通信社及在滿各新聞特派員へ左の如き感謝狀を贈つた、氏は更に新京ハルビンチヽハルの北滿に至り約一ケ月間慰問視察の上政治經濟各方面に亘りても調査研究する筈

感謝狀●

國際的非常時局に常備して滿洲國に所在する我新聞通信社は極めて特異なる立場にありて文化報告の實を擧げられつゝあり、即ち事變以來內國民に對しては皇軍の勇戰奮鬪を具さに報道するの任務を果し且つ又新興滿洲國の文化建設に貢獻せられ、外列國に對しては帝國の正義と信念とを高調して彼等の蒙を啓くに奮庠さる。我等同業員に其の勞苦と功績とに對して感謝と尊敬とを禁じ得ざるものあり。殊に昨今熱河征討に際しては各社夫々果敢優秀なる記者を派り草昧の天地に寒冷と風塵を冒して通信の重責に當らしむ。是等戰線に活躍する特派員諸氏に對しても我等は萬腔の感謝と慰藉とを呈するを惜まず我社は今回特に編輯長福安美好を貴地に派し親しく我社が懐抱するところの深き謝念を陳べしむ、願くば之を諒せられよ

昭和八年三月

新聞興信所長宮谷睦彌

拳銃密輸犯人 新京憲兵隊の手で 四名、寢込を襲はる

市內富士町三丁目十八番地耐業李財の妻李書氏(二四)同信呂(三四)同五馬路于士封(四五)同馬號內外羅供恩(三三)の四名は共謀し、昨年以來某方面から拳銃を密輸入し城內で密かに販賣を續けてゐるを新京憲兵隊員が發見し、去る三月三日同隊では右四名の寢込みを襲ひ一網打盡に逮捕し取調の結果、罪狀明白となり一件書類とゝもに身柄を十七日首都警察廳に護送した

軍事參議官親補式 行はせらる

(東京十八日發國通) 天皇陛下には十八日午前十時宮中鳳凰の間に出御、齋藤首相侍立の上軍事參議官、東京警備司令官及び師團長の親補式を行はせられ、松井、林、牛島、大谷の四中將に對し夫々親補の勅語を賜ひ、首相より職記を授けられた、尙森、蒲、原田三中將は地方在職中二月陸相より官記傳達手續を執つた

獨身社宅も二棟を設ける 滿鐵新社宅の內容

新京競馬場用地に新築される滿鐵代用社宅四百戸は屋報の如く目下材料運搬中で四月中旬いよく基礎工事に着手し九月頃までに完成さすことになつてゐるが同社宅の內譯は

種別	棟數	戸數
共同浴場	二棟	
獨身社宅	二棟	一〇〇室
丁種社宅	六四棟	一八四戸
丙種社宅	二五棟	一〇〇戸
乙種社宅	四一棟	八二戸
甲種社宅	二九棟	二九戸
特甲社宅	五棟	五戸

で、特甲社宅は高級社員のため常盤町に新築されることになつてゐる

憧れの母國へ 商業と高女の修學旅行 何れも近く出發

新京商業學校では例年の如くに本年度の修學旅行を行ふ事となつたので五年生約七十名は保津、今江兩教師に引率され、來る二十八日午後十時新京出發朝鮮經由で東京に向ひ途中各地の見學を行ひなほ歸途は大連經由來月十九日歸京の豫定である、又新京高等女學校も同じく安間、武田、中園先崎の四教師引率の下に四、五年九十七名は來る廿五日午後十時新京發朝鮮を經て東京に至り各地の見學をなし大連經由で來月十四日歸京の筈である

五勇士遺骨 悲しき凱旋

(大連十八日發國通) 去月中旬、奉山線にて名譽の戰死を遂げた、牧野義雄上等兵以下五勇士の遺骨は本日出帆のバイカル丸で悲しき凱旋をした

新京高女の上級入學 頗る好成績

新京高等女學校本年度の卒業生上級學校の入學許可の吉報に接してゐる者は現在左記の七名で例年にない好成績を示してゐる

△東京日本女子大學校、長尾須美子、森安子、木下芳子、添田菊枝

△東京日本女子高等學院西尾伊都子

△昭高女補習科、朝倉まもえ

△東京女子專門學校先崎によみ

劍道昇段試驗

滿鐵運動會では近く劍道昇段試驗を行ふべく日程は左の通り、奉天は三月二十三日また大連は同二十九日までの申込期間である、在京受驗希望の方は新京地方事務所社會係宛へ至急申込まれたいと

青訓座談會 映畫の夕も開く

新京青年訓練所では來る二十二日午後四時半から西廣場小學校階上應接室で「青訓座談會」を開催、引續き午後七時から同校講堂で青訓映畫の夕を開催するよし

寄附

新京機關區勤務河端長吉氏は今回鐵嶺轉勤に際し西廣場小學校へ金十圓を寄附した

吉凶禍福

△新京室町所アキノ氏十七日午前十一時五十分死去

△新京寬城子二西街門司敏夫十七日午前二時五分死去

殉職警官義捐金 寄附者芳名

(三月十七日)

一金二圓也 中央通 勘崎仙英氏

一金二圓也 同 井上香木氏

一金二圓也 日本橋通 平島常夫氏

一金五圓也 城内北門外 田中善平氏

一金九圓也 祝出 田中卓二氏

一金五圓也 曙町 小澤禎吉郎氏

一金二圓也 興安胡署 白瀧晴澄氏

一金三圓也 三笠町三丁目 林アヤ氏

合計金二十六圓也